



松田権六の仕事場

関連資料展示

松田権六の道具

左ケース

- 1：鯨箆（くじらべら）
- 2：中尊寺金色堂の解体修理の時に出てきた平安時代の
刷毛を模して作られた刷毛
- 3：檜の皮で作った箆
- 4：上塗り専用の刷毛
- 5：地塗り専用の刷毛
- 6：細く塗るための刷毛
- 7：小刷毛
- 8：あしらい毛棒（けぼう）・・・蒔絵粉を扱うための筆の一種
- 9：鼈甲製の蒔絵筆用の洗い箆
- 10：大小の針金で作られた「引掻き」用筆
- 11：ぶんまわし・・・コンパス
- 12：犬牙（けんき）・・・柄の先に犬の牙を取り付けた道具
- 13：鯛牙（たいき）・・・柄の先に鯛の牙を取り付けた道具
- 14：各種蒔絵筆
- 15：粉筒（ふんづつ）
- 16：塗師刀（ぬしがたな）
- 17：槍鉋（やりかん）
- 18：彫刻刀や各種の切出小刀

遺愛の品々

- 19：フェルト帽
- 20：腕時計
- 21：筆記用具
- 22：眼鏡

粉筆筒の引出

中央ケース

- 23：粉鎮（ふんちん）
・・・蒔絵用の金銀粉を入れた粉包みを押さえるために用いる重し
- 24：粉匙（ふんさじ）・・・蒔絵用の金銀粉をすくうのに用いる小さじ
- 25：鳥軸製粉筒
- 26：爪盤（つめばん）・・・蒔絵を描く際に漆をのせておく小さなパレット
- 27：あしらい毛棒
- 28：払い毛棒

松田権六と6人の手

松田権六の作品制作には様々な工芸家や技術者が協力しています。
今回はその中から6名の作家の作品を紹介します。

中央ケース

- 29：大場松魚《平文千鳥盤》1977年
- 30：増村益城《乾漆花輪中次》1986年
- 31：増村益城《洗朱細棗》1981年
- 32：増村益城《乾漆古代朱喜久茶入》1985年
- 33：田口善国《森の空蒔絵大棗》1983年
- 34：田口善国《糸菊蒔絵平棗》1987年
- 35：田口善国《桔梗蒔絵平棗》1991年
- 36：氷見晃堂《桑造蓑盆》1965年

右ケース

- 37：川北浩一《櫛拭漆大円盆》1961年
- 38：奥出寿泉《乾漆廿四辺菊形食籠》1961年
- 39：松田権六《蒔絵松文銘々皿》1965年

蒔絵で使われる素材

- 40：夜光貝
- 41：貝の真珠層部分を薄くはいだもの
- 42：アワビ
- 43：メキシコアワビ
- 44：卵殻（ウズラ）
- 45：象牙
- 46：平文用の各種素材